米国　～原油価格の安定は米経済を下支え～

経済調査部 主任エコノミスト　桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

OPECは生産目標を据え置き

6月5日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)総会では、原油価格(WTI先物)が1バレル=60ドル前後まで持ち直していることもあり、原油市場でのシェアを維持するために生産目標の据え置きが決定された。

昨年のOPEC総会では、米国のシェールオイルの生産拡大による市場シェア縮小を抑えるため、サウジアラビア主導で生産目標を維持したことが、原油価格の急落に繋がった。WTI先物は、15年3月に1バレル=42ドルまで下落した。サウジアラビアは急激に生産を増加させていた米シェールオイル企業に打撃を与え、原油市場でのシェアを維持する狙いがあったとみられる。

世界的に原油生産は拡大

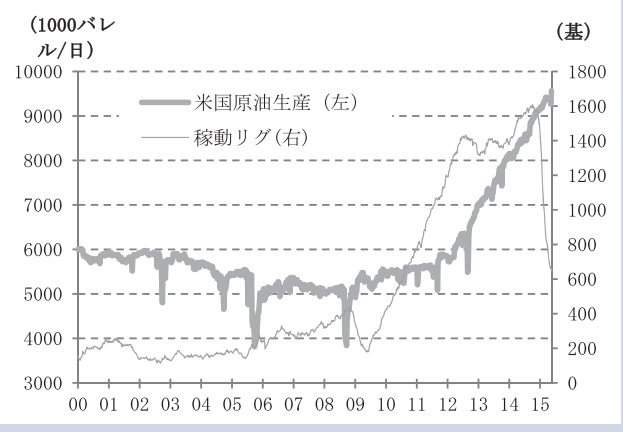
米国の石油掘削装置(リグ)稼動数は大幅に減少し、6月5日の週には642基(前年比▲58.2%)と03年1月以来の低水準となった。しかし、非効率なリグを停止し、効率性の高いリグの稼動を維持しているため、原油生産量は拡大を続けている。そうしたなか、米国のリグ稼動数は、足下で減少ペースを鈍化させ、落ち込みに歯止めがかかりつつある。さらに、原油価格が上昇すれば、リグ稼動数が増加するとみられ、結局のところ生産は高水準を維持する可能性がある。

OPECでは、生産目標が維持されているが、サウジアラビアなどの生産量は拡大している。また、6カ国協議でイランの核開発問題を巡る問題が合意に達し、イランへの経済制裁が解除されれば、イランでの原油生産が日量100万バレル程度拡大する可能性もある。さらに、15年にはロシア、ノルウェーなど非OPEC諸国での生産の拡大が予想されており、世界的に原油供給の拡大が続くと見込まれる。

原油価格の安定で米経済成長を下支え

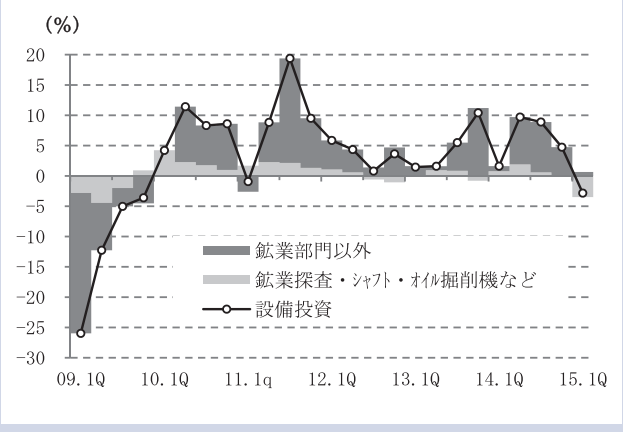
一方で、世界経済の回復ペースが緩慢なものに留まるなか、温暖化対策等により需要が抑制されるとみられることから、価格押し上げ圧力も当面限定的と予想される。また、米国と主要各国の金融政策の方向性の違いからドル高が続く可能性が高いことも、原油価格を抑制する要因となる。原油価格は現在の1バレル=60ドル程度で安定する可能性が高い。この水準であれは、1－3月期に大幅に減少した鉱業部門の投資も増加に転じると予想される。また、ガソリン価格は上昇に転じているが、依然低い水準であり、消費を支える効果が期待できよう。原油価格が現状レベルで安定すれば、米国経済の下支えとなる公算が大きい。

資料1　米国原油生産と石油掘削装置(リグ)の稼動数



(出所)EIA、Banker Hughes Inc.

資料2　米国設備投資の寄与度分解(前期比年率)



(出所)米商務省データより作成